

4町のすがたに迫る!

南あわじ市
誕生まで
あと163日

テーマ「まちの産業」

緑町

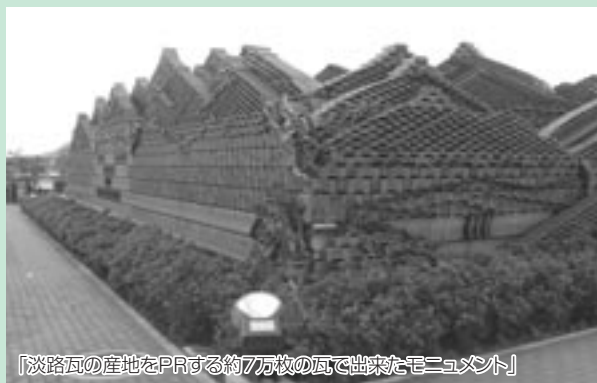


もぎたてみかんを堪能

「おいしいヘルシー温州みかん」

緑町の産業として昔からあるのが温州みかん栽培です。島内でも比較的古くから取り組んでおり、生産者が手間暇かけて育てたみかんは味に大きく反映され甘味満点。また、緑町のみかんをもっと多くの人に知ってもらおうと「みかんの木オーナー制度」も実施しており、都市と農村との交流にも一役買っています。

西淡町



「淡路瓦の産地をPRする約7万枚の瓦で出来たモニュメント」

「400年の歴史に育まれた淡路瓦の産地」

淡路瓦の起源は1613年、成山城（洲本市由良）の築城時に瓦を焼かせたのが始まりと言われ、産地の中心である津井地区には寛永年間（1624～1643）に伝わったとされています。良質な粘土に恵まれていたこともあり、津井・松帆地区で瓦製造業が繁栄し、町の基幹産業に。現在、いぶし瓦では全国一の生産量、年8千5百万枚を誇っています。

三原町



玉葱の収穫作業

「肥沃な大地の恵みを受けて育つ野菜」

三原町では、肥沃な大地と温暖な気象条件と都市近郊という地域的条件を生かして、明治20年代から玉葱栽培が始まりました。現在では、ほ場整備による農地の集約化や農業機械の導入が進み、減農薬や有機肥料によるレタス、白菜、キャベツなども栽培されています。平成13年には都市と農村をつなぐ農業の体験・交流・学習施設としてイングラウンドの丘が開園し、農業の活性化とまちのPRを担っています。

南淡町



▶淡路手延べ素麺

「細く、つるりとおいしい淡路手延べ素麺」

夏の食卓に上がる淡路手延べ素麺は、他の素麺と比べ、風味と腰があり一本一本が細く、その分手間と時間が掛かっています。この淡路手延べ素麺の由来は、およそ170年前に奈良の三輪地方から福良に伝わり、麵づくりを行う冬場の気候に恵まれ、漁師の副業として広がりました。夏バテ気分に最適な冷やし素麺を食べて、この夏を元気に乗り切りましょう。